

芸術学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Art

- 修士（芸術学）
- Master of Science in Art

人材養成目的 / Program Educational Objectives

幅広い視野で造形芸術に関わる理論・実技の専門研究を行い、高度な技能と実際的な応用能力・企画力によって、今日の造形芸術の多様な展開に対応し、グローバル化した社会において指導的役割を果たすことのできる高度専門職業人および研究者を育成する。

養成する人材像	造形芸術に関する専門的な知識・技能と表現力、応用能力・企画力を基盤に、芸術ないしデザインの創造的な活動によって社会に貢献し、教育機関、行政機関、企業等において指導的役割を担う人材
修了後の進路	筑波大学大学院芸術学学位プログラム（博士後期課程）等への進学、中学・高等学校等の教員、美術館・博物館学芸員、行政機関や企業の研究者等。画家、版画家、彫刻家、書家、工芸家、陶芸家、漆芸家、造形作家、写真家、建築家、デザイナー、イラストレーター、映像作家、評論家等の造形芸術における創造的表現能力を有する高度専門職業人および研究者

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（芸術学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、修士論文作成（特定課題研究報告書作成）、学会発表など
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、学会発表、国内外コンクール等への参加、展覧会企画発表など
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、学会発表、国内外コンクール等への参加、展覧会企画発表など
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、TA 経験、チームでのコンクール参加、展覧会企画発表、学会等支援など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、留学生との交流、TOEFL、TOEIC等受験、国際会議発表、国際共同研究（留学生を含む）など
	6. 創造力：芸術学領域における新規で有用な研究を推進する創造的な能力	芸術ないしデザインにおける専門知識と高度な技能を持ち、それに基づく優れた研究能力・創造的表現力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など
	7. 理解力：芸術学領域の意義と役割を理解し、問題を発見し解決の重要性を判断する能力	芸術ないしデザインの意義と役割に対する深い理解力、多様な知識・経験に基づく問題発見力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など
	8. 問題解決力：芸術学領域における諸問題を適切な方法により解決する能力	①芸術ないしデザインに関する多様な知識・経験、論理的思考に基づく問題解決力があるか ②健全で高い研究倫理意識を持ち、芸術家やデザイナーなどの権利に関する倫理意識を持ち、芸術ないしデザインにおける問題を解決する能力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など
	9. 展開力：芸術文化の進展に寄与する研究発展性を見据える能力	①研究成果を積極的に発表する能力があるか ②多様な人々と協働できる能力、国際的なリーダーとして活躍できる幅広い視野と行動力があるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する、研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ、芸術学学位プログラム特別演習、芸術学学位プログラム特別研究と、基礎科目および各領域ごとの専門科目の履修、論文執筆・学会発表、作品制作・展覧会発表など

<p>学修成果の 評価に関する 方針</p>	<p>学修成果の評価は「コンピテンス評価表」及び「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。達成度評価の段階・方法を以下に示す。</p> <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「研究動向調査票」（4月）によって研究計画及び研究準備状況を点検し、随時、学修・研究に関わる取組とその成果をもとに知識・能力の到達度について主指導教員と副指導教員による評価と指導を行う。 - 「対応する主な学修」における成果（授業における試験・レポート・作品等、授業外の活動等）をもとに「評価の観点」に従って知識・能力の到達度を点検し、12月に実施する「達成度評価_中間評価」（コンピテンス評価表、達成度評価表）によって学位授与の方針に基づく知識・能力の修得状況を確認し、評価する。 <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 修士論文の提出（12月）を見据えて、「修士論文計画届」（5月）及び「修士論文題目（確定）届」（11月）によって研究の進捗を点検し、随時、学修・研究に関わる取組とその成果をもとに知識・能力の到達度について主指導教員と副指導教員による評価と指導を行う。 - 「対応する主な学修」における成果（授業における試験・レポート・作品等、授業外の活動等）をもとに「評価の観点」に従って知識・能力の到達度を点検し、12月に実施する「達成度評価_修了時評価」（コンピテンス評価表、達成度評価表）によって学位授与の方針に基づく知識・能力の修得状況を確認し、評価する。 - 学位論文審査委員会において修了研究（論文、作品及び論文、作品及び研究報告書）の審査を行うとともに、「達成度評価_修了時評価」（コンピテンス評価表、達成度評価表）をもとに学位を受けるために必要な知識・能力の有無を判定する。
<p>学位論文に 関する評価 の基準</p>	<p>学位申請論文または特定の課題についての研究成果を対象として行う。その際、以下の<a><c>のいずれかによるものとし、下記の基準に基づき行うこととする。</p> <p><a>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義・目的が明確に示され、方法が的確であること。 2. 結論が当該領域の進展に寄与しうるものであること。 3. 先行研究をふまえ、論旨が明瞭であること。 <p>作品及び論文 (作品)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ・制作意図・方法が明確で独創的であること。 2. 完成度が高く、当該領域の進展に寄与しうるものであること。 <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義・目的が明確に示され、方法が的確であること。 2. 結論が当該領域の進展に寄与しうるものであること。 3. 先行研究をふまえ、論旨が明瞭であること。

学位論文に関する評価の基準	<p>< c > 作品及び研究報告書 (作品)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ・制作意図・方法が明確で独創的であること。 2. 完成度が高く、当該領域の進展に寄与しうるものであること。 <p>(研究報告書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究内容に作品との関連性が認められること。 2. 研究の意義・目的が明確に示され、方法が的確であること。 3. 論旨や結論に十分な妥当性があること。 <p>[審査体制及び審査方法]</p> <p>主査1名及び副査2名以上で構成する学位論文審査委員会を設置し、最終試験として当該研究及びその関連分野について口述試験を行い、上記項目の水準を満たしているか審査を行う。</p>
----------------------	--

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

芸術学学位プログラムは、美術史、芸術支援、洋画、版画、日本画、彫塑、書、構成、総合造形、工芸、ビジュアルデザイン、環境デザインの12領域からなる。各領域の特性を活かした教育方針のもと、領域横断的で学際的な学修および研究を奨励し幅広い能力の涵養を図りつつも、専門性の高い表現力と豊かな学識を備え、博士後期課程の研究活動につながる専門的実践力を養成する。

教育課程の編成方針	<ul style="list-style-type: none"> - 「基礎科目」により、造形芸術全般にわたる基礎的知識や論理的思考力を身に付ける。 - 「専門科目」により、各領域の専門性に対応する研究能力や創造的表現力を身に付ける。 - 「研究・制作発表特別演習Ⅰ・Ⅱ」により、授業や研究の成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション力や自己の研究を客観的に分析する力を養う。 - 「芸術学学位プログラム特別演習」により、修了研究につながる各専門領域における研究の遂行力を身に付ける。 - 「芸術学学位プログラム特別研究」により、各専門領域に対応した修了研究の遂行力を身に付ける。
学修の方法 特色的な教育	<ul style="list-style-type: none"> - 1年次では、「研究動向調査表」を提出し、研究内容に応じた主指導教員と副指導教員を決定する。 - 各学期途中および学期末に「作品展覧会」「作品講評会」「論文発表会」等を開催し、研究状況の確認と評価を行う。(研究・制作発表特別演習Ⅰ) - 2年次では、修了研究に向けて、「修士論文計画届」と「修士論文題目(確定)届」を提出し、主指導教員と副指導教員による指導を行う。 - 各学期途中および学期末に「作品展覧会」「作品講評会」「論文発表会」等を開催し、研究状況の確認と評価を行う。(研究・制作発表特別演習Ⅱ)

入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	造形芸術に関する基礎的な知識・技能と高い関心を持ち合わせ、現代社会の芸術に対する多様化し高度化した要求に応え、様々な課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲的な人材を求める。
入学者選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> - 専門領域に関する試験を実施し、領域の特性に応じた思考力、表現力、構想力等を評価する。 - 専門領域に関する能力、語学力、学習意欲から総合的に判断し、合格者を決定する。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 副指導教員体制により、研究指導の客観性を保ち、多様な相談に対応する体制を整えている。 - 授業時間外における自主的な学修・研究活動（論文・作品の発表、学内外プロジェクト参加等）を推奨し、自主制作・自主研究のような科目外の活動を学修成果の要素としてとらえることを学生に伝え、学生の研究意欲を高めている。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 修了研究の成果（論文、作品等）を公開する「修了制作展」の開催（学外）に向けて、修了予定者及び在学生によるワーキンググループを組織し、学生の主体的な活動による企画・運営を通して学生間の協働を促している。 - 各領域（各授業）の学修・研究の成果を公開する作品展や研究発表会、学内外におけるプロジェクト等を企画し、学生間の意見交換につながる機会を設けている。
教員との交流機会	本学位プログラム主担当教員主催の研究プロジェクト等への参加によって学生と教員の交流を活性化するとともに、学外の研究者や作家等と交流する学会、美術公募団体、各種研究会への参加も促し、芸術分野における先達とのコミュニケーションによって学生個々の学修意欲を高め、研究の質の向上につなげている。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

学修教育検討委員会等において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。

- 教務情報や IR データにより学生の学修状況等を確認する。
- 芸術関連組織における学修・研究の課題を抽出し、各組織共催による FD 研修会を開催する。